

在日フィリピン人のリスキリングが開く介護職への道—その介護人材不足とのつながりをめぐって—
Filipino residents' building of pathways for care work: exploring the link between labour shortages in the care
sector and their experience of re-skilling

光野百代

Mitsuno, Momoyo

大分県立芸術文化短期大学 講師

Lecturer at Oita Prefectural College of Arts and Culture

キーワード：質的労働力不足の形成、再就職の教育訓練、在日フィリピン人のエージェンシー

1. 本報告の目的と問題の所在

本報告は日本に定住し、後に介護職員として再就職するフィリピン人を事例として設定し、以下で述べる質的労働力不足とリスキリングの概念を併用することで、介護現場が訴える労働力不足が在日フィリピン人の介護職再就職の前向きな経験へとつながる仕組みを検討することを目的とする。そのために上記の事例をリスキリングの矛盾する事例として検討することで、外国人労働者が介護の人手不足をどのように補うのかを考察する。

上記の問いに答えるために、労働力の質的不足という移民研究で注目されてきた概念を先ず確認する。外国人介護労働力の需要は、労働者の供給だけではなく、受け入れ国が必要とする労働力の質的要素によっても形成されている可能性があるからだ。労働力不足とは量的不足のみで決まるのではなく、高い賃金や労働者としての権利など労働者が持つ特定の性質の存在との関係の中で国家によって捉えられ、不足に対応した外国人労働力の需要は、安価である等の特定の労働力の不足から生まれることがある(Sassen, 1990)。さらに、人材不足を補う外国人労働者は、安価な労働力に生き残りを依存する衰退産業のみでなく、成長が見込まれる産業が資本蓄積のために必要とすると Sassen (1990) は指摘する。つまり、介護職への外国人の参入を質的労働力不足と外国人労働力の需要という観点から捉えると、それは国内労働力の供給不足や経済成長という問題だけではなく、例えば国の移民政策、ジェンダー規範、成長産業と新規参入労働者の存在等を介した不足の形成のされかたに関わる問題であることが示唆される。

以上の先行研究の論点を整理しながら本稿は、外国人参入によって介護労働力の不足がどのように補充され形成されるのかという問題をリスキリングという概念による考察と共に検討する。この概念は、生産技術革新の結果雇用は消滅するのではなく需要のあるスキル・技能を獲得しているか否かで二極化されると論じるスキル偏向的技術進歩という論において言及される、労働力の需要が伸びる分野で就業するための再教育訓練を指す概念である。介護はその労働力需要を伸ばしてきた分野である一方で、待遇が必ずしも十分ではなく、3K（きつい、汚い、感染症等の危険）とみなされる職場であり（佐藤、2019）、スキル偏向的技術進歩論が期待するように高学歴と高収入を得る労働者の需要のみが伸びるのではない（Dwyer, 2013）。本報告はこの労働力需要の伸びと特定の労働力との矛盾を手掛かりに以下の事例を検討する。

2. 研究の方法

本報告は九州在住のフィリピン人が運営するボランティア団体による再就職支援プロジェクトをフィリピン人の再教育訓練と就業の事例として設定し、プロジェクト実施者が認識する課題と支援がもたらす効果、及び介護事業所の雇用戦略と認識される課題を同定する。事例は以下の3つの情報源の基づく。つまり、

1. 報告者が2019年に行った上記ボランティア団体関係者への面接、参与観察、及びSNSで公開される情報から得た質的データ、2. 大分県の介護労働者の特徴を述べた先行研究、3. 大分労働局が公開する統計資料である。

3. 考察

①まず在日フィリピン人の雇用訓練の経験は、本報告事例でも先行研究（高畑、2019）においても、以前の職業よりも働きやすく、誇りに思える仕事として前向きに捉えられている。

②本報告事例ではその教育訓練の実施は、個人ベースではなくプロジェクトとしてボランティア団体が整備した受講費用、日本語学習、就職先等の支援体制の下で行われている。支援体制はボランティア団体だけではなく、地域で良い介護人材を育てることを目指す介護職員養成スクールやその後の就職先の事業所も関りながら形成されている。また上記のボランティア団体が自らの教育経験を発展させ開始した、母国から実習生を呼び寄せるための日本語教育プロジェクトにおいてもこの支援体制が活用されている。

③次に、事例のフィリピン人が補充する労働力不足の背景を考察する。大分県の介護人材不足の状況は、介護の離職率が全国平均より低い一方で、人材の流動が激しく（佐藤、2019）、外国人を雇用する県内の医療・福祉産業の事業者数の伸び率は過去五年間増え続けている、という特徴がある。このことから、また事例の観察データからも、急な不足に対応できる人材の需要が地域にあることが示唆される。

④さらに、「良質な人材の確保」を運営上の課題として挙げる事業所が全国的に多いことから（佐藤、2019）、外国人が不足を補うことで形成される労働力の質を理解する手掛かりとして（それが指すものは事業所に委ねられるが）質の確保という課題を考慮しなければならない。例えば、介護福祉士等の高度な資格を有すれば安定した給与、労働条件の見込みが生まれるのに対し、事例でのフィリピン人の資格取得は初級レベルの資格に留まる場合が多い。その結果、不規則な勤務や事業所の収入などの制約に労働条件が左右されやすくなる（佐藤、2019）。また、日本語能力の問題（高畑、2019）や外国人という立場に対する雇用者の扱いも外国人が不足を補うことで形成される特定の労働力に貢献していると考えられる。

③と④から、介護労働の質的不足を形成する要因として、地域の流動的な人材供給に対応した流動的雇用という介護事業所の運営戦略がまず挙げられる。同時に、資格や日本語のレベル、外国人という立場等の要素はフィリピン人が不足を補うことで特定の不足補充が現場で形成されていることを示唆する。

さらに特定の不足を補う特定の労働力に位置付けられるからこそ、在日フィリピン人は通常は好まれない類の就業を必ずしもその様に捉えていない可能性を①と②が示す前向きな資格取得の取り組みと新規プロジェクトが示唆する。当事者にとってタレントではなく日本人と同様に介護資格を得て就業することはスキルを得た成果であり、さらに地域の同胞の再就職支援のプロジェクトは母国から技能実習生を迎えるプロジェクトへと進化している。

本報告は事例から、介護人材不足と外国人雇用の関係を具体化する事業者と支援団体に注目する。

参考文献

Dwyer, R. E. (2013). The care economy? Gender, economic restructuring, and job polarization in the US labor market. *American Sociological Review*, 78(3), 390-416.

Sassen, Saskia. (1990). *The mobility of labor and capital: A study in international investment and labor flow*. Cambridge University Press.

佐藤彩子. (2019). 介護サービス労働力の質的不足の地域差. *公立鳥取環境大学紀要*, 16, 19-37.

高畑幸. (2019). 在日フィリピン人と介護労働—社会的評価獲得の手段として—. *比較家族史研究*, 33, 8-31.